

# ESDって何だろう？



ESD(Education for Sustainable Development)とは、「一人ひとりが世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」を言います。

具体的には、単なる知識の習得や活動の実践にとどまらず、日々の取組の中に、持続可能な社会の構築に向けた概念を取り入れ、問題解決に必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことが求められています。



環境省ウェブサイトでは、ESDの視点を取り入れた環境教育、ESDの取組等について、様々な情報を発信しています！

<https://edu.env.go.jp/>

## 内容紹介(一部)

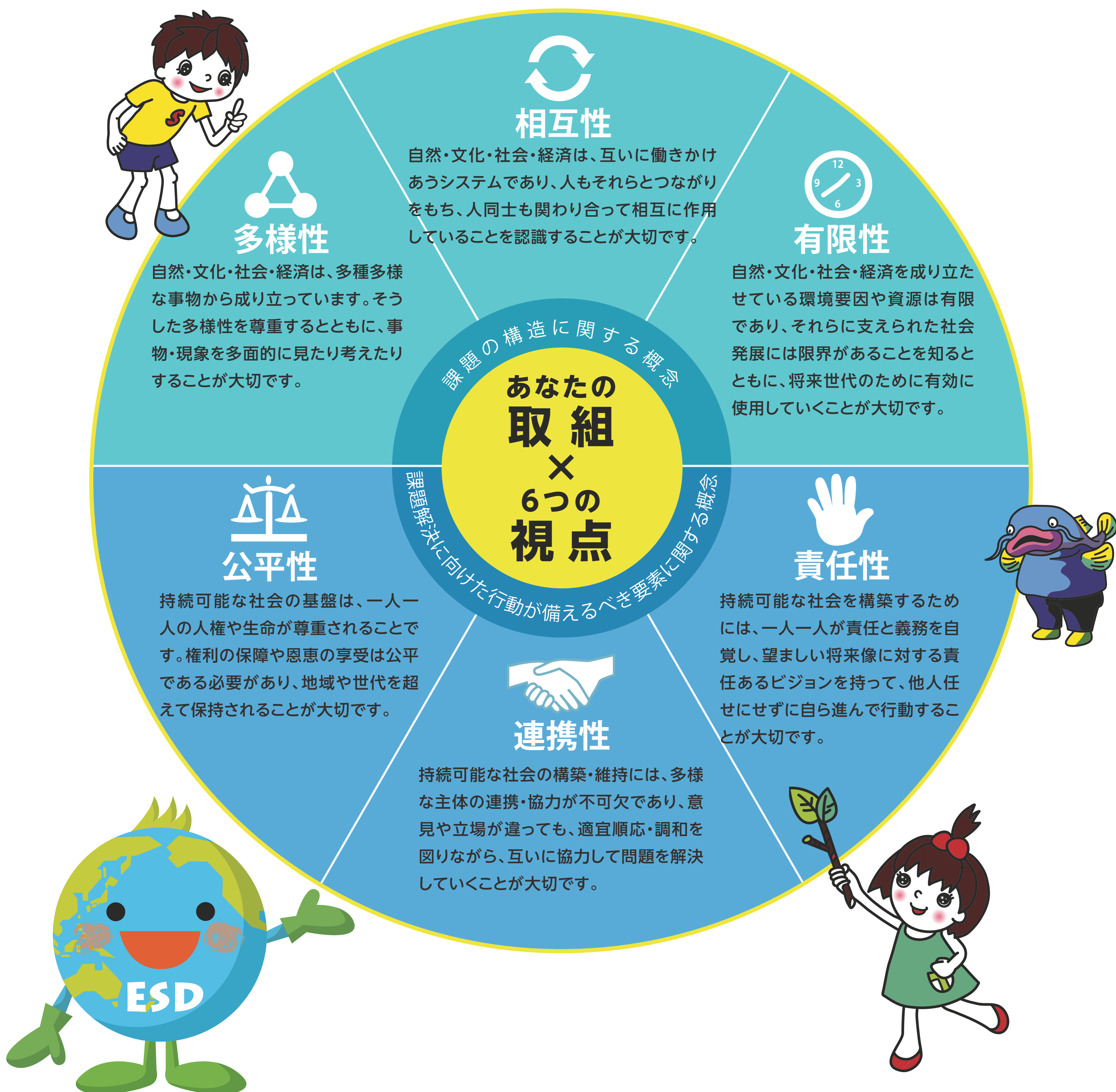
- こんな環境学習プログラムが欲しい という方は .....>  
<https://www.eeel.go.jp/>
- こんな環境活動を紹介したい という方は .....>  
<https://www.p-esd.go.jp/top.html>
- 環境活動について助言を受けたい という方は .....>  
<https://edu.env.go.jp/counsel/>



# あなたの取組をESDの視点で とらえてみよう。

(持続可能な社会で大切なことを理解する)

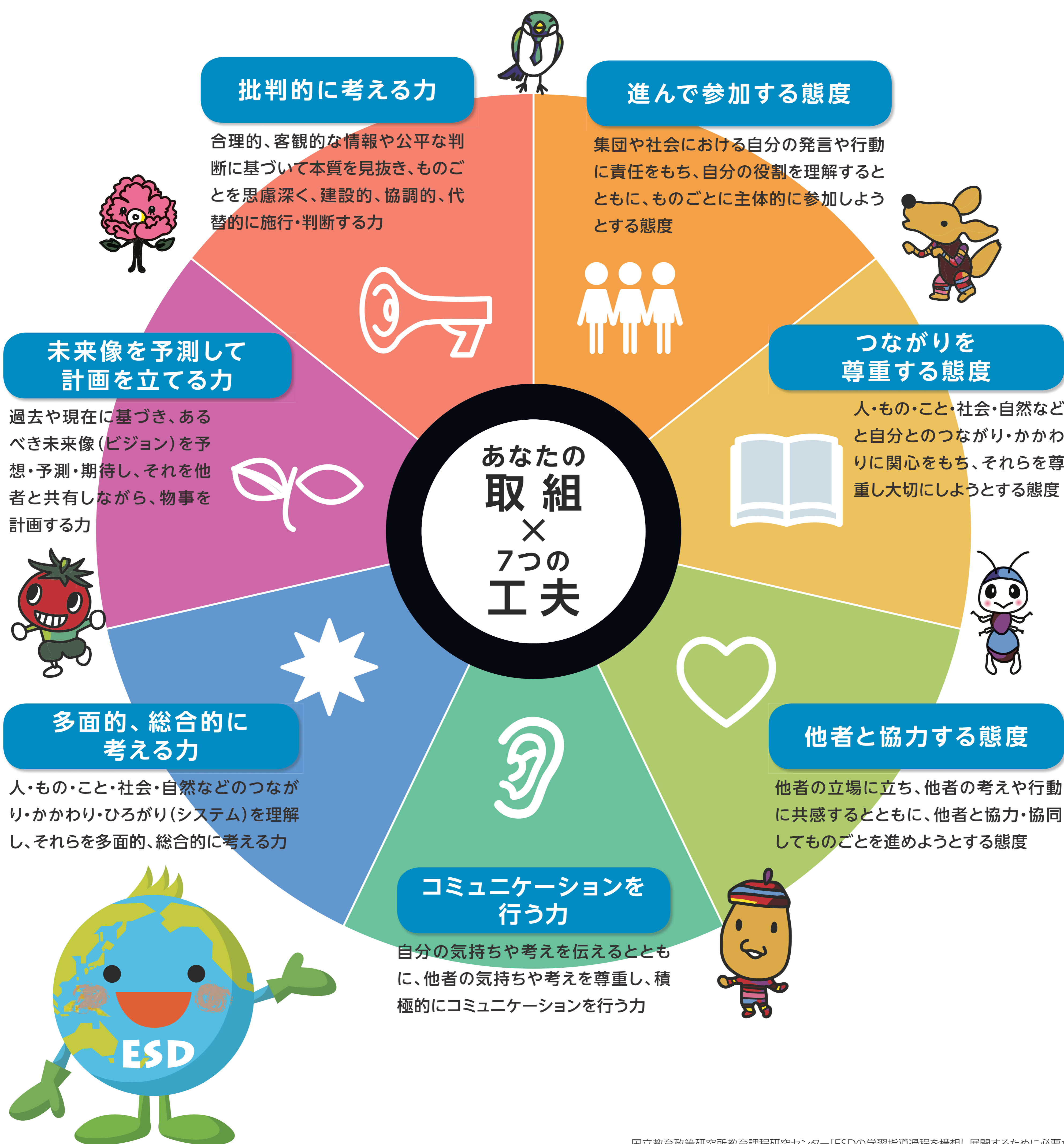
持続可能な社会とは、将来の子どもたちも含め、みんなが幸せに暮らせる社会です。その実現に向けた様々な課題について、各課題の構造や、その解決に向けた行動が備えるべき要素を正しく理解し、その解決策を見出すことが必要です。



# あなたの取組をESDの視点で工夫してみよう。

(問題解決に必要な能力・態度を身に付ける)

現実に直面する課題の発見・探究・解決の過程で、自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け、自らの意思を決定し、行動を変革して行くことができるようになるには、以下のような能力・態度を身に付ける必要があります。



# 取組のなかにESDを取り入れるとは、 どういうことだろう。

ESDは難しいものではありません。あなたの普段の取組に“ESDの考え方”を取り入れることは、あなたの取組をより深く、そして大きなものに変えていくことにつながります。

## 取組例1

### ゴミの分別をする



#### 有限性

分別により資源の節約にどのくらい役立っているのだろう

#### 未来像を予測して計画を立てる力

このままゴミが増え続けるとどうなるのかな？ 今何ができるだろう？

#### 公平性

ゴミの問題を解決するためには、誰に声をかけていくべきなのだろうか

#### 責任性

なぜ、自分たちがゴミの分別に取り組まなければならないのだろう

#### コミュニケーションを行う力

たくさんの人に協力してもらうためには、何を説明すれば良いのだろう

#### 進んで参加する態度

他の人の取組にも積極的に参加していこう

それだけなのかな

## 取組例2

### 川をきれいにして魚を放流する



#### 多面的に考える力

地域の人にとってどのような意味があるかな？ どう思うだろう？

#### 批判的に考える力

川をきれいにしても、またすぐに汚れてしまうのでは？

#### 他者と協力する態度

他の人も仲間になって手伝ってくれたらもっと活動が広がるな

#### 多様性

本当にここにこの魚を放流して大丈夫かな？

#### 連携性

企業・行政にも声をかけて手伝ってもらったらいいな

#### つながりを尊重する態度

そもそもなぜ川が汚れたのだろう？ 自分の生活は関係あるのかな

#### 相互性

川をきれいにするには地域が元気になることにつながるんだ

いろんな考え方が  
あるんだね



# 環境省によるESDの取組状況

環境省では、ESDの視点を取り入れた環境教育の実践を全国で展開・推進しています。その一部を御紹介します。

## 持続可能な地域づくりのための人材育成事業

ESD環境教育モデルプログラムを作成し、全国47都道府県において、各地域の自然環境や歴史・文化等の特性を活かしたプログラムへと改良しながら、学校現場等での実証授業を行っています。

## 東北地方ESDプログラム チャレンジプロジェクト

東日本大震災という大きな自然災害の経験を契機に、東北地方で新たに取組まれている環境保全活動や環境教育等に関する調査に基づき作成したプログラムを東北各地において実践することで、東北発となる新たなESDの取組を推進しています。



## 山形県

### 鮭をとおしてかんがえる 川のこと、食のこと

地域に伝わる郷土料理づくりを通して、その地の気候や風土、自然環境等に目を向けることで地域の素晴らしさを再認識し、それらの郷土料理をいつまでも伝承できるように地域や環境に対して行動できる人材を育成する。



## 北海道

### 北国の暮らしから省エネを考える 「フィフティ・フィフティ」プロジェクト

省エネルギー実施の一連のプロセスを実際に行い、地球温暖化のしくみとエネルギー問題について学び、学校単位のエネルギー対策にあてはめて理解することを目指す。



## 香川県

### 『樹木の気持ち』とつながろう！

～まちも里海も豊かにする樹木のはたらき～  
樹木医の指導のもと、児童が「こども樹木医」になって身近な樹木を診断することを通して、理想の公園や、地元の将来の町並みを想像し、樹木の働き、人間と自然との共生を考える。



## 山口県

### 絵本作家を目指そう

地元へ飛来する特別天然記念物ナベヅルと共生する地域の人々やその暮らしとふれあいながら、専門家からナベヅルの生態や特徴について学び、地元出身の漫画家と一緒にナベヅルと共生する地域の暮らしを題材とした絵本作りに挑戦する。



## 沖縄県

### 地下水と飲み水

地域や処理法の異なる飲料水を比較し違いを確かめるとともに、浄水・排水処理の過程を実験を通じて学び、「水を使う＝水を汚す」ということを理解するところから、島の暮らしにおける地下水との持続的な関わり方について考察する。



## 奈良県

### 菜の花の向こうに

菜の花の栽培を通じ、自然環境への関心を高め、生物多様性を尊重する態度を養う。菜の花から絞った菜種油はバイオエネルギーとして活用し、地域の社寺に灯明油として奉納するなどして環境教育と文化遺産教育を融合。



## 東北ESD

東日本大震災という大きな自然災害の経験を契機に、新たに取組まれている環境教育や環境保全活動等を基に10種類のプログラムを作成。そのプログラムの中から実践を行い、優秀な実践報告を表彰。



## 栃木県

### ちがう国でも同じこと

～モンゴルと日本の暮らしを比べてみよう～  
児童たちがモンゴル調査員となり、モンゴルの衣・食・住・音楽等の生活や文化を体験的に学び、日本とモンゴルの違う所、同じ所を知り、世界には様々な文化があることに気付いたうえで、自分の住む国や地域に目を向けていく。



## 三重県

### 見つめよう わたしたちの自然 ～ギフチョウから考える薦原の自然と未来～

地元へ生息する天然記念物であるギフチョウを通して、自分たちの住んでいる地域を見つめ直し、ギフチョウが生息できる地域の自然環境の希少さに気づき、愛着と誇りを育み人と自然の共存方策を考える。



# ESDの国際的な動きを知ろう。

ESDはヨハネスブルグ・サミットを、SDGsはリオ+20を契機に動き始めました。国連ESDの10年は、GAPに引き継がれ、持続可能な開発目標であるSDGsに盛り込まれることで、「持続可能な開発」への更なる貢献を目指しています。

## 持続可能な開発等の動き

1987年

環境と開発に関する世界委員会  
(ブルントラント委員会)

報告書『我ら共有の未来』発表。  
「持続可能な開発」という概念が、取り上げられる。

1992年

環境と開発のための国連会議  
(地球サミット、リオ・サミット)

2000年

ミレニアム開発目標 (MDGs)

2000～2015年の国際開発目標。  
「万人のための教育(EFA:Education for All)」の実現に向けた「2015年までの初等教育の完全普及」を含む8テーマを、国際開発目標として設定。

2002年

持続可能な開発に関する  
世界首脳会議  
(ヨハネスブルグ・サミット)

地球サミット(リオ)から10年後の2002年に開催。日本が「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」を提案。

2005年

2012年

国連持続可能な開発会議  
(リオ+20)

地球サミットのフォローアップ会合。「国連ESDの10年の終了年(2014年)を超えてESDを推進する」ことが合意。成果文書「我々が望む未来」に、ESDが盛り込まれる。また持続可能な開発目標(SDGs)をつくり、ポスト2015年開発アジェンダに統合することを決定。

2014年



2015年

持続可能な開発目標 (SDGs)

持続可能な開発の3つの側面(経済、社会、環境)に、統合的に対応し、先進国・途上国を対象とする普遍的目標(MDGsは途上国のみを対象)。「ポスト2015年開発目標(ポストMDGs)」に統合される予定。現在、SDGsの具体的な内容が専門家で議論されており、「教育」を含む様々なテーマが挙げられている。



## ESDの動き

国連総会で「国連ESDの10年」を採択

国連持続可能な開発のための  
教育の10年(2005～2014年)

ESDに関するユネスコ世界会議

国連ESDの10年の活動を振り返るとともに、2015年以降のESD推進方策について議論を行う。  
国連ESDの10年の後継プログラムとして、グローバル・アクション・プログラム(Global Action Programme : GAP)を承認。

2014年秋の国連総会で  
GAPを採択予定